



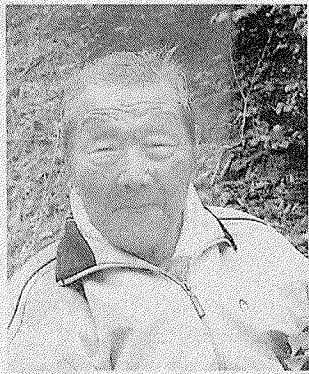
打ち上出部の

みちのく週末

勝手に東北世界遺産

「君、これは科学的な測器なのだから、アルミピンはきちんと水平にしてくださいよ」。1996年、岩手県内村（現・西和賀町）の雪国文化研究所研究員となった私へ、高橋喜平所長（1910〜2006）がかけた言葉である。高橋所長は、中谷宇吉郎とも親しかった「雪の申し子」で、80歳を過ぎても雪や氷の造形を撮影に歩いた。

ピンは、所長が1968年に開発した「最深積雪指示計」の部品。観測地の最大積雪深を現場に行かずに記録する測器である。

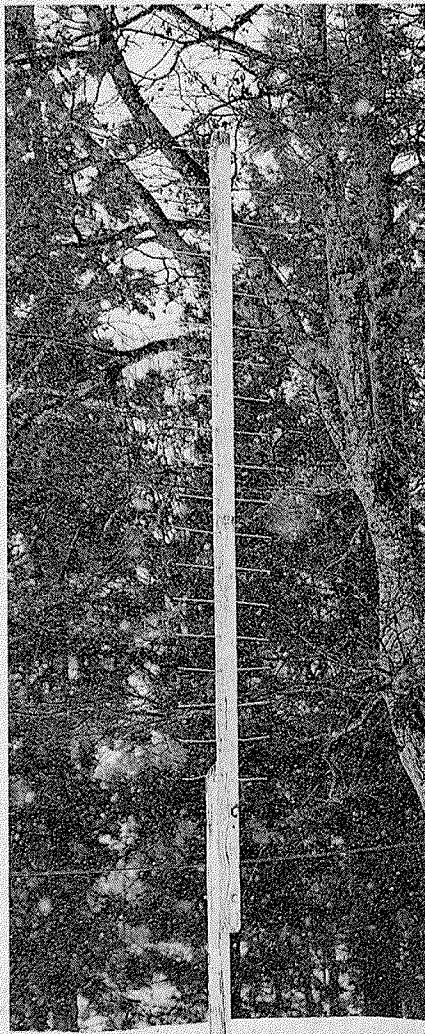


高橋喜平氏=2005年5月

構造はきわめて簡素だ。白く塗った長い柱の両側に、10センチ間隔に直径

第249号「最深積雪指示計」 小野寺聡(研究員)

米の気象学者も認めた計測器



今や残っているのはここだけとなった「最深積雪指示計」=いずれも岩手県西和賀町

3ミリのアルミピンをさし、地面に垂直に立てる。アルミピンは10センチの雪に埋めれると、雪の沈降する力によって下方に曲がる。雪が解け、現地まで行けるようになったらそれを見て、地表から1センチにさしたピンが曲がり、その10センチ上のピンが曲がっていないければ、110センチが最大積雪深になる。日々観測できる場所に設置した雪尺の記録と比較して誤差はプラス10センチ、マイナス4センチ。あるアメリカの気象学者が高く評価したところ、各地で使われるようになった。

開発は、高橋所長が林業試験場（現・森林総合研究所）東北支場山形分場（山形県真室川町釜淵）の分場長時代の63年に始まった。

ピンは強風など地表部の変化では

おのぞら・さとし 1961年、盛岡市生まれ。西和賀町雪国文化研究所研究員。86年、高橋喜平氏の助手となる。

高橋喜平の名を世界に知らしめたもう一つは「高橋の18度法則」。雪崩が発生しそうな地点を仰ぎ見た時の角度が18度より小さい地点にいれば到達しないという経験則。ひたすら冬山に入り、雪崩で命を落としそうになりながら見つけた。雪は未解明の部分が多く、そこを解けば「ユキトピアができる」と考えて動き続けた。「いくつになっても夢と希望は減らないものです」と私に言ったのは90歳のとき。人間そのものが「東北世界遺産」だった。（木瀬公二）

変形せず、積雪10センチの沈降で曲がる素材を求め、竹や鉄、アルミで長さを変えて13種類のピンを作り、5回の冬をかけて比較観測。雪質や気象条件も加えて比較するため山形県の釜淵、蔵王、月山に加え、札幌市、新潟県十日町市、石川県鶴来町（現・白山市）の6試験地の計77カ所で行われた。その結果、直径3ミリのアルミピンを10〜15センチの長さで設置するのが最も良いとなった。それを使い、雪国文化研究所は岩手大と共同で西和賀町の積雪分布を91年から数年調査した。町内83カ所の平均は239センチだった。それらの測器はすでに撤去され、今は研究所の敷地に1基が残るのみとなっている。

めに用意してくれた美しく舞台上に舞った紙吹雪と共に――。ありがとうございます。

肉汁満点。が絶妙の仙台やのサして11ガーは売約128。パラうまみ低温で

楽天ルーキー10人が合宿所入り



榎君の手がわって1年。ムに勝つドラフの西巻さん」の1年生の球の応援内野手は見に行き担ぎましを全力で10選モグを始めに

お知らず

シルバー創作展 日、仙台市青葉区(公)リーンプラザ。シマチュア芸術家た芸作品や洋画、日点。シルバーセンと推進課交流啓発係15・3170)。

東方落語寄席 時、加美町の中新ル(0229・63・出演は今野家もう出一般2千円、大学3500円(前売